

## 2021 年度定時評議員会議事録

1. 日 時：2021 年 6 月 19 日（土） 13：00～14：00

2. 場 所：ZOOM を使用したオンライン会議

### 3. 出席評議員（順不同・敬称略）：

北海道セーリング連盟：葛西研一、秋田県セーリング連盟：岡崎真一郎、外洋津軽海峡：亀谷雄朗、茨城県セーリング連盟：高橋勤司、栃木県ヨット連盟：森谷茲允、千葉県セーリング連盟：伊藤亮一、東京都セーリング連盟：山本俊貴、神奈川県セーリング連盟：長田美香子、長野県セーリング連盟：笠原賢一、外洋東京湾：松浦孝志、外洋三崎：鈴木一行、外洋三浦：飯島洋一、外洋三浦：安藤直道、外洋湘南：石丸寿美子、外洋湘南：松石万希子、NPO 静岡県セーリング連盟：杉山武靖、愛知県ヨット連盟：石川徹、三重県ヨット連盟：長谷川正也、外洋東海：坂谷定生、石川県セーリング連盟：大西治夫、滋賀県セーリング連盟：山本伸善、京都府セーリング連盟：坂文彦、兵庫県セーリング連盟：玉置純、大阪府ヨット・セーリング連盟：岩崎洋一、奈良県セーリング連盟：森谷大悟、和歌山県セーリング連盟：山口慶一、外洋内海：山岡閃、外洋内海：古賀正行、NPO 岡山県セーリング連盟：岩崎裕児、広島県セーリング連盟：大原博實、香川県ヨット連盟：九富潤一郎、愛媛県セーリング連盟：大槻映幸、福岡県セーリング連盟：岡村勝美、佐賀県ヨット連盟：井上宏、長崎県セーリング連盟：西村隆、外洋沖縄：徳田恭紀、外洋玄海：沼田浩行、全日本学生ヨット連盟：真行寺誠、全日本実業団ヨット連盟：外尾竜一、日本視覚障害者セーリング協会：秋山淳、日本 470 協会：大森慶子、日本ウィンドサーフィン連盟：石原智央、日本 IRC オーナーズ協会：石渡一夫

以上、出席 43 名

### その他出席者（順不同・敬称略）：

会長：河野博文、副会長：中川千鶴子、桑原啓三、馬場益弘、中澤信夫、専務理事：川北達也、常務理事：大村雅一、富田三和子、理事：望月宣武、平松隆、中村和哉、永井真美、中村隆夫、尾形依子、橘田佳音利、高間信行、長塚奉司、高橋祐司、森田豊三、黒川重男、磯部君江、吉留容子、菊池邦仁、新田肇、岩瀬喜貞、安田大助、宇都光伸  
監事：上野保、紙谷雅子 参与：小山泰彦 委員長：安藤総務委員長、松田財政委員長、柳澤広報委員長、増田ルール委員長、大坪外洋安全委員長

以上、その他出席 35 名

### 4. 議事の経過および結果

新型コロナウイルス感染症対応のためオンライン会議システム ZOOM を使用し開催し

た。出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わることを確認し、適時的確な意見表明がお互いに来る仕組みになっていることを参加者全員に確認し、議案の審議を下記のとおり開始した。

(定足数の確認)

評議員 51 名中、出席 43 名で、定款第 19 条に基づき定足数を充たしており、本会は成立した。

(議長の選出及び議長の開会宣言)

定款 18 条 3 項に基づき、議長の選出を行った。議長は松浦孝志評議員に決定し、2021 年度定時評議員会開催の宣言があった。

(議事録署名人の任命)

本会の議事録署名人は議長指名により、坂谷定生、大西治夫の両評議員が任命され、承認された。

(河野会長挨拶)

新型コロナウイルスで今年は完全オンラインでの評議員開催になった。賛否両論があったが、オリンピックが開催される予定であり、私自身は開催されると信じている。選手たちは国内で練習を積んでおり、オリンピックの運営チーム日々練習を行っている。オリンピックに向け十分な準備を行い、本番を迎えてくれると思っている。7 月 9 日にはオンライン壮行会を予定している、是非皆さまのご参加、応援をお願いします。新型コロナウイルスで寛容的な社会でなくなりましたが、オリンピックでアスリートが素晴らしいパフォーマンスをすれば、感激の嵐が巻き起こり、寛容的な社会が取り戻せ、無事にオリンピックが開催出来れば日本の危機管理能力を世界に示すことが出来ると思っている。また、2024 年のオリンピックで外洋ダブルハンドの種目が外されてしまったことは残念であった。次の機会に向け戦略的にチャレンジしていきたい。本日のご審議宜しくお願い致しますと挨拶があった。

## 5. 議案

### 1) 2020 年度事業報告 (案) 及び決算報告 (案) について

川北専務理事から資料に基づき、2020 年度事業報告 (案) について説明があった。

2020 年度は、JSAF ビジョンが制定されたのち、TOKYO2020 での選手の活躍とともに、この方針に向け全専門委員会が関わって活動を始めようとしていたが、新年度目前に全世界でのコロナ禍の蔓延により、ワールドカップの中止、オリンピックの 1 年延期が決定した。次々と大会が中止になる中、セーリング競技大会の再開に向けた感染拡大予防ガイドラインの策定や緊急事態宣言への対応のなか、万全の対策を打った JOC ジュニアユースオリンピック大会の開催、大学生支援のための募金活動など、安心と安全を担保したセーリング活動継続をすすめ、ワールドカップに代わるワールドイズワンの開

催企画、会員増強プロジェクトや財政健全化プロジェクトの推進、ガバナンスコードの遵守に向けた自己説明資料の公表などに邁進してきた。さらに、全専門委員会もオンラインの活動に制約をうけ、中止縮小せざるを得なかった事業も数多くある中、新たな方法を模索しながらチャレンジし、現場を支える活動に最大限尽力してきた激動の年であったといえる。まだ、課題は多く残っているとはいえ、これらの数々の工夫や連携は、新たな年度に向け、必ずや良い結果をもたらすことができると確信していると発言があった。

松田財政委員長から資料に基づき、決算報告（案）について説明があった。

2020年度決算報告書（案）について、2020年度JSAF事業は世界的なコロナ禍の拡大による影響を大きく受けた結果、ワールドカップの中止や東京オリンピック延期の他、多くの大会が開催中止となり、JSAFとしての事業活動全体も縮小が余儀なくされた。事業活動収入で比較した場合、2019年度が約788百万円であったのに対し、2020年度決算では約296百万円と前年度比約38%の規模となった。

JSAF全体の事業活動収入合計は296,043千円となり、第2次補正予算比105,774千円減少した。内訳として、補助金等収入が予算比61,462千円減少、会費収入9,094千円、協賛金収入65,950千円、繰入金収入27,630千円が減少した一方で、事業収入と募金寄付金等収入はそれぞれ予算比18,818千円と27,192千円増加した。事業活動支出合計は287,310千円となり、予算比67,464千円減少している。内訳としては、渡航費、滞在費、旅費交通費の支出が合計で55,588千円と大きく減少したほか、賃借料や委託費が減少する一方で、消耗品費や支払助成金支出、海外大会参加費支出、管理費における業務委託費がそれぞれ増加した。これにより予算では47,043千円の収入超過を見込んでいた事業活動収支は、8,732千円の結果となった。

投資活動については、収入側で33,961千円の特定期預金取崩を行う一方、支出側で35,874千円の積立預金を計上した。内訳は、オリンピック強化積立資産1,505千円取崩し3,000千円積み立て、東京五輪準備特別積立資産2,500千円全額を取崩すほか、特定費用準備金（東京五輪）積立資産からは18,670千円取崩した。

また、学生会費支援積立資産は10,373千円を取崩し、収入にあてる一方、来年度以降に向けて15,995千円を積み立て、環境事業積立資産については729千円取崩し1,000千円積み立てた。なお、2020年度決算ではパリ五輪準備に向けての特定費用準備金積立として15百万円を計上することとした。これらの結果、投資活動収支差額は4,825千円のマイナスとなった。

以上により、2020年度決算における当期収支差額は3,907千円の黒字となり、これに前期繰越収支差額の127,233千円と合計すると、次期繰越収支差額は131,141千円のプラスとなった。

事業別（委員会別）収支について、管理費その他および各委員会全体では収入が支出

を 5,518 千円上回る結果となった。予算では約 48 百万円の収入超過を見込んでいたが黒字幅は約 43 百万円減少した。

① 管理費・その他、収入面については、メンバー会費収入は 50,358 千円となり前年比 2,703 千円マイナス、賛助会費収入は前年比 1,000 千円のプラスで 6,750 千円となった。また、第 2 次補正予算比その他寄付金の 6,850 千円がプラスに寄与している。

なお、学生会費免除に関しては、大学生会費寄付金として 15,995 千円を計上した。支出面では、大会助成金が第 2 次補正予算時から 6,950 千円増加している。今期はコロナ禍の中での持続化給付金やテレワーク助成金の収入もあり、これらの結果、管理費その他における収支では 22,789 千円プラスとなり、第 2 次補正予算時の収支のプラス 15,628 千円から約 7 百万円プラス幅の増となった。正味財産増減計算書上の加盟団体会費収入 39,985 千円と加盟団体会費振替額 10,373 千円の合計。委員会別収支計算書上は管理費・その他の加盟団体負担金（メンバー会費/大学生含）39,985 千円と学生支援積立取崩収入 10,373 千円の合計である。

② コーポレート系各委員会（総務管理系の業務を行っている総務委員会、財政委員会、広報委員会、レディース委員会、国際委員会、アスリートの各委員会を総称）について、広報委員会は支出 11,469 千円に対し第 2 次補正予算ではオリンピック準備委員会からの繰入収入を 975 千円計上していたが、決算ではこれをゼロとしたため 11,370 千円の収支マイナスとなった。総務委員会では支出 2,423 千円となったが、予算計上していたガバナンス強化助成金等事業収入とガバナンス強化負担金の収入が 1,265 千円なかったため、収支マイナスが 2,328 千円となった。レディース委員会は第 2 次補正予算時の支出が 410 千円であったのに対し、決算では 318 千円の結果となり、合計で 14,016 千円の収支マイナスとなった。引き続き、コーポレート系委員会の収入面をいかに確保していくか検討課題として取り組んでいく。

③ コーポレート系委員会を除いた各事業系委員会全体については、2020 年度決算では 3,255 千円の収支マイナスになった。これはルール委員会で 2,537 千円、オリンピック強化委員会で 1,494 千円、外洋常任委員会で 1,565 千円、SWC/World Is One 江の島準備関連で 11,969 千円と、それぞれ収入が支出を上回った一方で、東京オリンピック準備委員会において 19,172 千円のマイナスとなっていることによるものである。東京オリンピック準備委員会支出は、第 2 次補正予算比 6,647 千円増加の一方、収入面では日の丸セーラーズ協賛金収入が予算比 17,700 千円減少したこともあり、東京オリンピック準備委員会の収支として 19,172 千円のマイナスとなった。このため当期決算では特定費用準備金（東京五輪）積立から 18,671 千円の取崩を実施している。

オリンピック強化委員会は、収入面では第 2 次補正予算比 42,883 千円減の 113,193 千円、支出は同じく 43,826 千円減の 111,699 千円となり、この結果、同委員会の当期収支差額は 1,494 千円の黒字となった。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた結果、支出面で渡航費、滞在費、旅費交通費の合計で 49,643 千円第 2 次補正予算から減少し、

収入面でもそれに呼応して助成金収入が 45,154 千円予算比減少した。

SWC/World Is One 江の島大会について大会の開催にあたっての地元自治体の負担金や東京オリンピック準備委員会からの繰入金等を 26,114 千円収入に、World Is One 事業費と実行委員会経費合計で 14,145 の支出をそれぞれ新たに計上している。

投資活動収支は、今期 33,961 千円の特定預金取崩を行い収入とする一方、35,874 千円の積立預金を行い支出となった。内訳は、オリンピック強化積立資産について 1,505 千円（予算：500 千）取崩し、3,000 千円を新たに積み立てた結果、2021 年 3 月末残高は 7,194 千円となった。また、東京五輪準備特別積立資産は、2,500 千円全額を取崩した結果、2021 年 3 月末での残高はゼロとなった。上述のとおり、オリンピック準備委員会の収支が約 19 百万円マイナスである点、協賛金から東京五輪開催準備事業のために積み立てていた特定費用準備金（東京五輪）積立資産を 18,670 千円取崩した結果、同積立資産の 2021 年 3 月末残高は 108,179 千円となった。また、コロナ禍にあつて学生の会費支援を目的とし積立てた学生会費支援積立資産は 10,373 千円を取崩し 15,995 千円を積み立てた結果、2021 年 3 月末残高を 5,266 千円とした。環境事業積立資産は、729 千円取崩し、1,000 千円積み立てた結果、2021 年 3 月末残高は 10,091 千円となった。なお、第 2 次補正予算ではパリ五輪準備に向けての特定費用準備金積立として 35 百万円を計上することとしていたが、2020 年度決算においては同計上額を 15 百万円とした。

収支相償の観点では、公益目的事業に関する公益会計において収支がバランスすることが求められており、公益会計で生じるマイナスは収益会計と法人会計と合算することを基本としている。この点、2019 年度決算では、公益会計での経常増減額が 13,202 千円のプラス、収益会計と法人会計との合計で 18,910 千円のプラスだった。一方、2020 年度決算では、経常増減額が公益会計で 7,322 千円のマイナスとなった。これを収益会計の 58 千円のプラス、法人会計の 6,748 千円のプラスと合算すると 515 千円のマイナスとなる。

2020 年度決算における収支相償の計算においては、公益会計の経常増減のマイナス（7,322 千円）と特定費用準備金（東京五輪）資産取崩による収入（18,670 千円）に対し、支出側で特定費用準備金（パリ五輪）積立資産に 15 百万円の積立額を計上しており、これにより収支相償の問題は一旦解消している。

以上、当年度の収支差額は法人全体で 3,907 千円のプラスとなりましたが、その内訳は公益会計でマイナス 2,171 千円、収益会計マイナス 71 千円、法人会計でプラス 6,149 千円だった。この点、上述のとおり当年度決算では「収支相償」の観点の課題については、一旦解消している。

当年度はコロナ禍の中にあつて先行きが不透明ななか、会費収入の減少も見込まれるなど厳しい環境ではありましたが、延期された 2020 東京オリンピック開催に向けて、支出を抑制しつつ規模を縮小しながらも事業活動を鋭意進めてきた。

事業が縮小した結果資金繰りには当面問題は生じていないものの、新型コロナウイルス

スの感染拡大がまだ予断を許さないなか、東京オリンピック開催もあって、当財団法人の収入・支出構造も大きく変わっていくことも予想される。

公益財団法人である JSAF としては、中長期ビジョンに基づいた事業計画・予算の見直しを具体化し、それに応じた事業の執行を行っていくべく、適時の入出金や収支の把握等を含む適切な経理処理・財産管理等を行っているとの説明があった。

上野監事から資料に基づき決算報告書の監査報告があった。監査の結果、特に問題は認められないと報告があった。

2020 年度事業報告 は、棄権 0、反対 0、満場一致で承認された。

2020 年度決算報告 は、棄権 0、反対 0、満場一致で承認された。

## 2) 評議員からの質疑・報告について

葛西研一評議員から事前に提出された意見に基づき、加盟団体の法人格取得について簡便な申請手続き、少ない経費で法人格を取れるように、他のスポーツ協会と連携し担当省庁へ働きかけをして欲しいと要望があった。

川北専務から、上位の統括団体に申請手続きの簡易化、少経費で行えるように協力依頼をしていきたいと考えていると回答があった。

## 6) 委員会報告について

川北専務から資料に基づき、業務執行理事報告について説明があった。

昨年度から会員増強プロジェクト、財政健全化プロジェクトをスタートした。また、JSAF の中長期計画を今年度中に作成の予定をしている。各評議員の方々からご意見、ご支援を宜しくお願い致しますと発言があった。

安藤総務委員長から資料に基づき、総務委員会（ガバナンスコード適合性審査対応関係他）報告について説明があった。

今年度は JSAF が中央競技団体の適合性審査を受ける。7 月に適合性審査書類を提出し審査を受け、来年の 1 月に中央競技宛に通知があり 3 月に審査の公表があると発言があった。

斎藤オリンピック強化委員長から資料に基づき、オリンピック強化委員会報告について説明があった。

代表選手は、各種目の選考指定大会の結果により、以下の 10 種目 15 名が代表選手と

して選考され決定した。選手団役員は、以下のメンバーを選任した。いずれも理事会の承認を頂き、JOC 理事会で認定を頂いています。新型コロナウイルスの影響で1年延期が決まった後、代表内定選手は苦しい状況の中でもモチベーションを下げずに本番に向けてしっかりと準備を続けて参りました。選手団一丸となって、メダル獲得と複数種目入賞を目指し全力を尽くしますとの発言があった。

◆代表選手（10 種目 15 名）

- ・470 級男子 岡田 奎樹（トヨタ自動車東日本）・外菌 潤平（九州旅客鉄道）
- ・470 級女子 吉田 愛・吉岡 美帆（両名ベネッセホールディングス）
- ・49er 級男子 高橋 稜（Japan SailGP Team）・小泉 維吹（早稲田大）
- ・49erFX 級女子 山崎 アンナ（ノビア・日体大）・高野 芹奈（ノビア・関西大）
- ・RS:X 級男子 富澤 慎（トヨタ自動車東日本）
- ・RS:X 級女子 須長 由季（ミキハウス）
- ・レーザー級男子 南里 研二（百五銀行）
- ・レーザーラジアル級女子 土居 愛実（アビームコンサルティング）
- ・Nacra17 級混合 飯東 潮吹・畑山 絵里（両名エス・ピー・ネットワーク）
- ・Finn 級男子 瀬川 和正（鳥取県スポーツ協会）

◆選手団役員

監督：中村健次、総務：斉藤愛子、技術スタッフ：前園昇、コーチ：吉田雄悟、関一人、飯島洋一、中村健一、山田寛、中村昭仁、宮野幹弘、石川裕也、デンプシー・ニコラス・チャールズ、ブレッド・アーサーの以上13名（うち1名は交代要員）が、JOC の正式選手団員。小菅寧子、鈴木國央、マティアス・ブエラーは正式役員ではなく、サポートスタッフ。

桑原副会長から資料に基づき、オリンピック準備委員会報告（観戦艇案内、壮行会）について説明があった。

新型コロナウイルスの関係で大会が中止になり、大会運営の海上練習も出来ずにいたが、やっと毎週運営の海上練習が出来るようになり、本番に向けて頑張ってもらいたい。また、昨年と同様にオリンピックの観戦艇を用意した。組織委員会が認めた唯一の観戦艇である。新型コロナウイルスの関係で昨年よりも定員を減らしている。先行してスポンサー、選手の家族を中心に案内を行った。先週あたりから一般応募を行っている。まだ余裕があるので、ご希望の方は連絡をお願い致しますと発言があった。

中川副会長から資料に基づき、オンライン壮行会開催について説明があった。

当初予定していた、帝国ホテルでの壮行会は中止にし、オンライン壮行会を行うことになった。特別寄付の欄もあるが、無料で見ることもできますので、皆様の参加をお願い致しますと発言があった。

川北専務からオリンピックチケットについて口頭にて説明があった。

7月上旬を目途に紙のチケットを購入された方に発送する予定である。オンライン壮行会の参加人数が少ないので、応援のためにも参加をお願い致しますと発言があった。

永井環境委員長から資料に基づき、環境委員会について報告があった。

環境省と JOC のコラボレーションで地球温暖化防止の動画を作成した。富澤選手、須長選手、山崎選手、高野選手の 4 名が撮影にご協力いただいた。環境省、JOC のウェブサイト動画を見ることが出来る。環境委員会のページにリンクも貼ってあると発言があった。

高間障がい者セーリング推進委員長から資料に基づき、障がい者セーリング推進委員会報告があった。

障がい者セーリングに関する団体は全国に 23 都道府県にあり 50 団体以上存在する。この団体の利用者も 1000 名を超え、150 名の競技者もいるが、JSAF に登録している方はほとんどいない。2021 年度三重国体後に開催される全国障害者スポーツ大会、東京障がい者スポーツ大会でヨット競技はオープン競技として採用されている。このことから、障がい者セーリング推進委員会としては、障がい者へのセーリングの普及、JSAF 会員増強の観点からも障がい者に対する会員登録料を提案したいとの発言があった。

菊池外洋常任委員から資料に基づき、外洋常任委員会報告があった。

フラッグリレー報告について 1 年遅れで進めている。コロナ禍で、制約がありながら進めてきました。無事にフィニッシュしたいと思っている。7 月 9 日の壮行会でお披露目したいと考えていると発言があった。

以上、2021 年度定時評議員会は、上記の通り同意ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

2021 年 6 月 19 日

会 長 河 野 博 文

議 長 松 浦 孝 志

議事録署名人 坂 谷 定 生

議事録署名人 大 西 治 夫